

新興国レポート

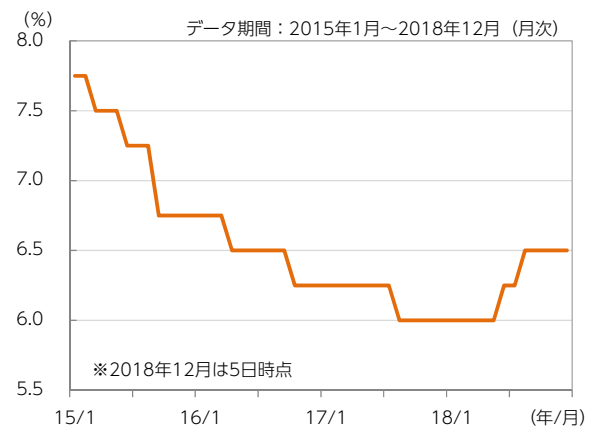
インド政策金利 2 会合連続据え置き

インド準備銀行は景気・企業業績の先行きに自信を深める

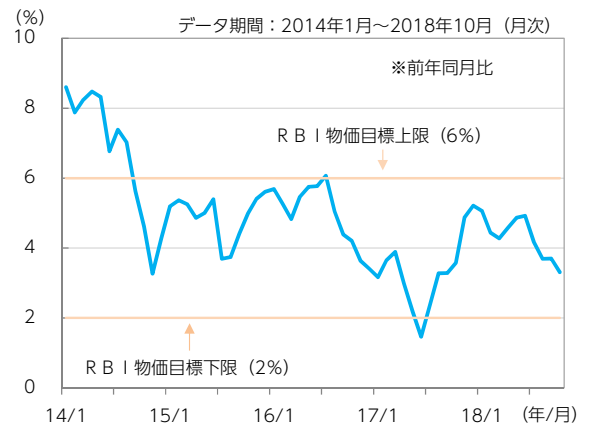
- ✓ インド準備銀行（中央銀行）（RBI）は12月5日の会合で、物価の落ち着きや通貨安の一服等を根拠に、政策金利を6.5%で据え置くことを決定。今後の政策姿勢も「引き締め姿勢」を継続。
- ✓ RBIは2018年下半期と2019年上半期の物価見通しを前回10月会合から引き下げ。経済成長率はほぼ据置き。会見において、パテルRBI総裁は景気・企業業績の先行きに自信を示す。

- RBIは12月5日、政策決定会合を開き、政策金利を大方の予想通り6.5%で据え置くことを決めました。据え置きは前回10月の会合に続き2会合連続となります（図表1）。据え置きの理由として、インフレ率が落ち着いていること、原油価格の急落、為替見通しの改善（通貨安の一服）を挙げています。今後の政策姿勢についても「引き締め姿勢」を据置きました。
- 2018年8月から10月まで3ヵ月連続でRBIの政策目標（2～6%）の中央値4.0%を下回る等、インドの消費者物価（CPI）（前年同月比）は落ち着いた動きを続けています（図表2）。国内消費の約8割を輸入に頼る原油価格（WTI原油先物価格）は、10月以降一転して調整局面入りし、足元は2017年10月以来の水準近くまで下落しています。米国が11月5日に発動したイラン産原油の禁輸措置で日本や中国を含む8カ国・地域が180日間適用除外となり、当面イランの増産が続くとの見通しや、米中貿易摩擦過熱化によって世界経済が減速し、需要が減少するとの観測が主な要因となっているようです。対米ドルで史上最安値を更新し、一時は1米ドル=74インドルピーを超える等、急激に進んだ通貨安は、原油価格の下落に反比例するかのよう10月初旬を底に落ち着きを取り戻しつつあります（図表3）。
- RBIは今回の会合で物価見通し（前年同期比）を、2018年度下半期（2018年10月～2019年3月）は前回の3.9～4.5%から2.7～3.2%に、2019年上半期（2019年4月～9月）は4.8%から3.8～4.2%に下方修正しました。実質GDP（国内総生産）（前年同期比）は、2018年下半期が7.2～7.3%、2019年上半期が7.5%と前回とほぼ同水準に据え置きました。パテルRBI総裁は会合後の会見で、「原油価格の下落が企業収益の改善を後押しし、可処分所得の増加が個人消費を押し上げるであろう」と指摘しました。RBIはインドの景気・企業業績の先行きに自信を深めているように思われます。

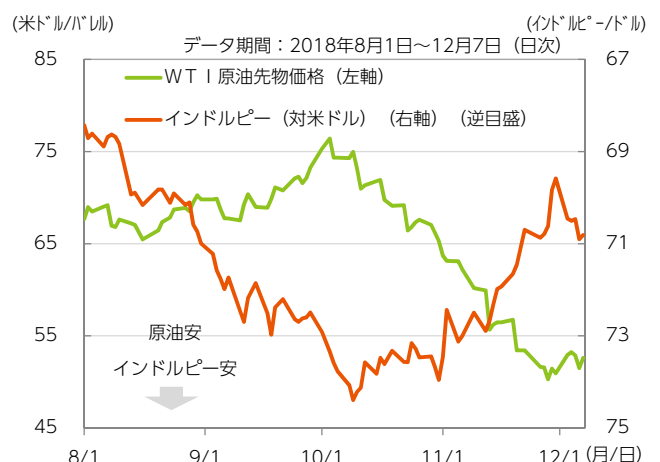
図表1：インド政策金利



図表2：インドCPI（前年同月比）



図表3：インドルピー（対ドル）と原油



【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>